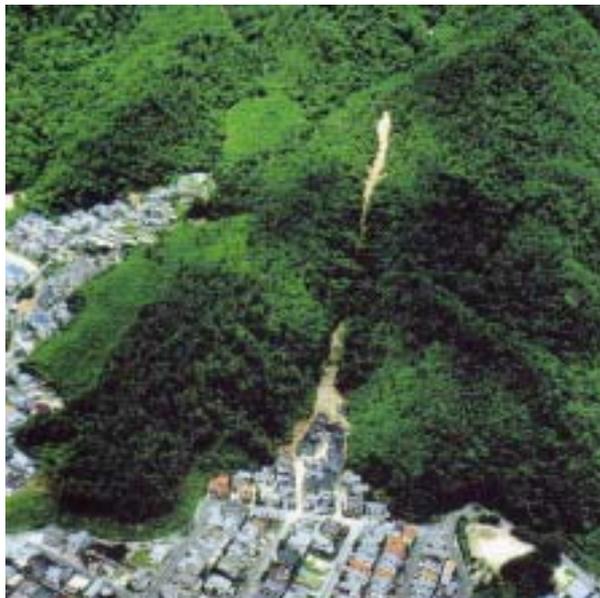


「自主防災組織の活動について ～自分たちのまちは自分たちで守ろう」

広島市安佐南区沼田町伴地区自主防災会連合会

1

1. 豪雨災害の恐ろしさ 6.29土砂災害(平成11年6月)



5



伴東一丁目(瀬戸内団地)

6

家屋被害状況 (平成11年6月29日豪雨災害) (棟数)

区分	沼田地区	安佐南区
全壊	16	16
半壊	16	18
一部破損	28	36
床上浸水	18	41
床下浸水	52	115

7

今日のお話しの内容

1. 豪雨災害の恐ろしさ(ビデオ紹介)
2. 広島市安佐南区伴地区自主防災会の概況
3. 防災に対する具体的な取り組み

地震に対する「避難計画」の作成
「わがまちの防災マップ」の作成
「生活避難場所運営マニュアル」の作成
独自の「被害状況調査」と情報の共有
災害訓練(夜間宿泊訓練等)の実施と検証(ビデオ紹介)

4. 伴地区自主防災会連合会活動実績
5. 自主防災のポイントと重点項目
6. 住民が行政を動かす時代(行政への要望)

8

2. 広島市・安佐南区・伴地区(自主防災会)の概況 (1)地域の概況

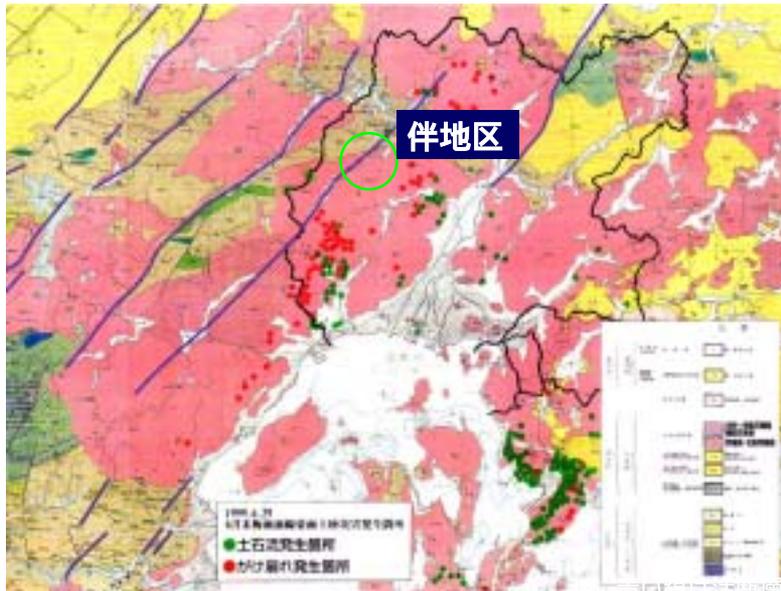
- 🌿 広島市の北西部
- 🌿 安佐南区人口22万人
- 🌿 伴地区人口3万人



項目 区域	面積 (km ²) (H16.2)	人口(人) (H17.7末)	世帯 (H17.7末)	H13年火災件数		出火率 (人口1万人あたり)	
				H13	H15	H13	H15
広島市	741.17	1,156,120	498,984	600	489	5.3	4.3
安佐南区	117.19	217,473	87,189	84	80	4.0	3.8
伴地区	約 37.00	30,140	11,209	14	5	5.6	1.7

9

活断層！ まさ土！ 土石流・崖崩れ発生場所！



10

(2) 自主防災会の概況

伴地区自主防災会連合会 会員数 6,500名

伴地区の特色

- ・宅地のほとんどが山裾の斜面に開かれている
- ・多くの新興住宅団地が造成されるなか、昔ながらの集落も点在する
- ・住宅の多くは地盤が弱い場所や急傾斜地に面していたり、土石流危険箇所に含まれている
- ・6・29豪雨災害(平成11年6月29日)以前は、住民の間には災害に対する漠然とした危機感があったものの、それが組織的な防災活動に結びつくことはなかった

11

自主防災組織結成の経緯

(1) 自主防災会連合会の設立

阪神淡路大震災(平成7年1月17日)をきっかけに

平成7年9月伴地区自主防災会連合会設立

伴地区4小学校区(伴・伴東・大塚・伴南)の22町内会

(2) 6・29豪雨災害(平成11年6月29日)

市政始まって以来という未曾有の大災害

これを契機に地区住民の防災に対する「危機管理意識」は一気に高まりました。

同地区においても、甚大な被害が発生したものの、地区住民は逆境のなかでくじけることなく、むしろこの災害から得た体験や教訓を将来に伝え、地域の防災対応能力を高める良い機会としてとらえました。

(3) 防災関係機関との連携

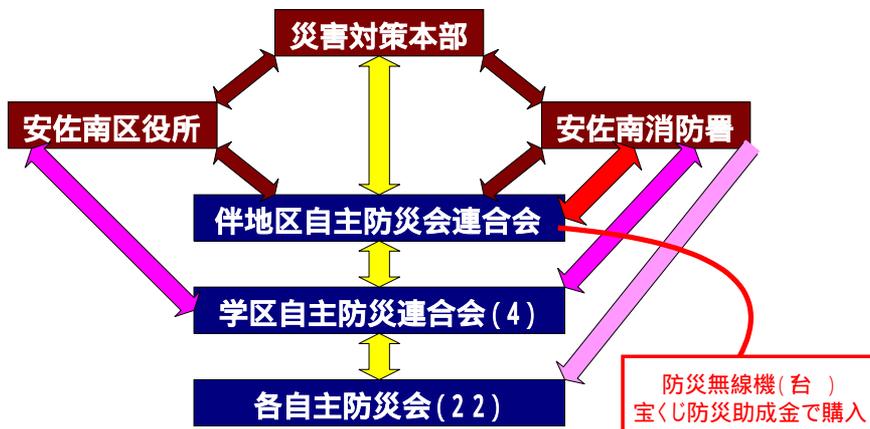
総合防災訓練, 集団救急救助訓練, 防災フェアなど

防災関係機関が行う各種防災行事には地区をあげて積極的に参加するなど、地域と行政が一体となって「災害に強いまちづくり・ひとづくり」を目指している模範的な地区になるよう努力しています。

12

(3) 防災(行政・地域)組織図

行政や他団体との位置関係と連絡体制



13

伴地区自主防災会連合会の避難開始

- 自主避難勧告発令
 災害対策本部を設置し、地区内4カ所の避難所に担当町内会長と副会長が直行し避難準備を開始する。
 会長は避難所(学校等)の鍵を避難所管理者と共有している。
- 連絡は、自主的に整備した無線トランシーバを用いる。
 双方向通話が可能なものがほしい。
- 電話、トランシーバを使って、行政を含め情報の共有化を図るため連絡を開始する。

14

(4) 防災協力団体(伴地区)一覧表

訓練などの相互協力を通じた地域意識を高揚が大切

学校関係	病院関係	福祉関係	地域関係
広島市立大塚小学校 広島市立伴東小学校 広島市立伴小学校 広島市立伴中学校 広島市立伴南小学校 広陵高校 広島市立沼田高校 広島市立大学 修道大学 中電工技術短期大学	日比野病院 伊藤内科医院 佐々木整形外科 クリニック あべ内科医院 斎藤医院 矢野脳神経外科 和泉循環器内科	伴学区社会福祉協議会 伴東学区社会福祉協議会 大塚学区社会福祉協議会 伴学区公衆衛生推進協議会 伴東学区公衆衛生推進協議会 大塚学区公衆衛生推進協議会 沼田地区民生委員・児童委員協議会	伴女性会 沼田町商工会 建設業界 伴小学校PTA 伴東小学校PTA 大塚小学校PTA 伴南小学校PTA 伴中学校PTA 伴学区体育協会 伴東学区体育協会 大塚学区体育協会 伴地区交通安全協会

現実的な特徴

病院関係: 専門にかかわらず、救助ボランティア

建設業界: 地域の土木建築業界22社 重機機材、土のうの提供

15

避難システム

近くの小学校・中学校等を生活避難場所に指定

【近隣避難場所】

【生活避難場所】

- 伴小学校
- 伴東小学校
- 大塚小学校
- 伴南小学校

【広域避難場所】

- 広陵高校グランド
- 市立沼田高校グランド
- 広島修道大学グランド

【避難システムの流れ】

地震発生

自宅、職場など

・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難

① 近隣避難場所

・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難

② 生活避難場所

・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難

③ 広域避難場所

・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難
 ・自宅、職場などから避難

地震に対する「避難計画」の作成

番号	名称	住所	電話番号
①	広陵高校グランド	広島県	広島
②	市立沼田高校グランド	広島県	沼田
③	広島修道大学グランド	広島県	広島

救急告示病院・診療所

名称	電話番号
日比野病院	843-2357

↑ 凡例

「わがまちの防災マップ」

凡 例

○	区役所出張所	○	消火栓
☎	消防出動所	☑	防火水そう
🚒	消防団車庫 (自主防災組織本部等)	🏊	プール
🏠	警察署・交番	💧	放水
🏥	救急告示病院・診療所	👨‍👩‍👧	壊たきり家族世帯(1人暮らし)
🏞	広域避難場所	🔌	電動発電機
🏠	生活避難場所	🔧	吹き出し用具
🏫	近隣避難場所	🔧	救出用具
🚰	水助避難場所	👷	救援等の人材確保
🏠	目標場所	🚰	手押しポンプ井戸
🏠	下水処理・清掃工場・埋立地等	🔌	動力ポンプ井戸
🏠	備蓄倉庫	🥛	薬局(ミルク)
🏠	災害時の防災活動拠点	🚻	公衆トイレ
🚰	臨時ヘリポート	🚿	公衆浴場
🚰	浄水場・緊急遮断井付配水池等 (費用が掛かる場合があります。)	☎	公衆電話
🏠	避難所	🛣	避難道路
🏠	防災行政無線屋外受信機	🛣	主要道路
🏠	屋外放送設備	🚑	緊急輸送道路
🏠	昭和46年以前の住宅	🛣	土砂災害危険箇所
		🏠	急傾斜地崩壊危険箇所

「わがまちの防災マップ」(2) 実例



18

「わがまち防災マップ」の作成に係る苦労、工夫した点

1 土石流危険箇所

- ・寝たきり家族世帯、1人暮らし世帯
- ・土石流危険箇所～土地評価が下がる
- ・古い家屋(昭和46年以前の建物)

各町内会長、役員が各世帯を回って住民を説得
了解・同意(数ヶ月を要した)

2 住民への周知方法(追加記入を含む)

マップが大きく経費がかさむ A - 3判に縮小(カラーコピー)して全住戸に配付

3 地図の著作権の問題

消防局が作成したものを譲り受け、各町内会ごとに作成

4 災害場所の追加記入

豪雨災害等により災害場所を追加記入

5 危険箇所の追加記入

広島市指定の土石流危険箇所の追加記入

6 生活避難場所運営マニュアルの作成

各項目についての留意点の記入

19

災害訓練（夜間宿泊訓練等）の検証

訓練とは、
「わがまちの防災マップ」・「生活避難場所運営マニュアル」の**実地検証（確認）と実地訓練**

テーマは、

1. 住民への迅速な情報提供（避難勧告の時期など）
2. 情報収集と情報伝達
3. 避難手順，準備
4. 訓練避難経路の確認
5. 避難場所の運営（避難者等の確認・食糧等の調達など）



自主防災会員の防災意識の高揚と維持

22



平成17年8月

23







28

災害訓練(夜間宿泊訓練等)とその検証

伴地区自主防災会連合会が主催し、行政や関連団体等が参加

日時	時間帯	場所	参加人数
平成11年7月1日(予定)	6.29災害により, 中止		
平成12年7月1・2日	夕刻から朝方	伴東小学校	500名
平成13年7月(予定)	中止		
平成14年8月31日	夕刻から夜半	伴小学校	500名
平成15年8月30・31日	夕刻から朝方	大塚小学校	700名
平成16年8月28・29日	夕刻から夜半	伴東小学校	600名
平成17年8月27・28日	夕刻から朝方	伴小学校	800名
平成18年8月26日	夕刻から夜半	大塚小学校	600名+

夜間宿泊訓練参加者へのアンケート実施

- (1) 参加者の防災意識の高揚がみられた意見
- (2) 今後の参考となる意見

平成15年 大塚地区防災訓練後のアンケート結果

- ♥ 訓練が本格的、総合的で、目からうろこが落ちた。
- ♥ 訓練で良かったと思った。
- ♥ 訓練とは言え良かった。
- ♥ 次は家族で参加したい。情報をどんどん伝えて欲しい。
- ♥ 現実に具体的に役立つよう、常に訓練内容の工夫改善を願います。
- ♥ 沢山の人達が一生懸命に関わっていらっしゃるのを初めて知って、反省した。
- ♥ もっと若い人の参加が欲しい。
- ♥ 一回の参加ではよくわからなかった。継続が必要。
- ♥ 災害時は地域全員で協力しあうことの大切さがよくわかった。
- ♥ 避難場所では何が必要で何が大切であるか、よくわかった。
- ♥ 実際に体験することで、子供も含めて心の準備をすることができて満足。
- ♥ リーダーの養成が必要。

32

現場で感じた具体的気づき等

- ♥ 災害現場からのTVレポートには、たいてい「ここに住んで何十年もたつが、こんなことは初めてだ」という声必ずある。避難しながら人に、よく理解してもらう必要があることの一つ。
- ♥ 避難者数を多くしようとして怖がらせると、対策をしる、という反応が返ってくる場合がある。
- ♥ 避難者数を多くしようとして大きな災害を例に説明すると、小さいけれども致命的な現象をないがしろにしてしまう傾向が生じかねない、ということ忘れてはいけない。
- ♥ マンションが土砂災害の危険区域に指定された場合、上の階の人も全部避難するのはおかしい。むしろ構造上十分な強度を持っていれば2階以上は安全な避難場所ではないか。
- ♥ ガイドラインやマニュアルが総花的なものになり、かつ、総合点で評価されるようになっては、すでに多くを実施している伴地区がいろいろな逆行する変更をしなくてはなくなる心配がある。地域性を考慮し、かつ後日評価を行う可能性をふまえたガイドライン、マニュアルにすべきである。よいと取りの最小公倍数を全部満たすのがよいのではない。
- ♥ 定期的にみんなで実施していることが、たくさんある。重要だからやっている。自主防災マップの更新、避難ルートの確認、避難用機材、器具の点検、確認、使い方の訓練など。
- ♥ 伴地区の避難訓練は土砂災害だけでなく地震、水害、テロなどすべてを含んで考えている。避難する側にとって避難は避難である。土砂災害用のガイドラインだけ作ればよいのではなく、他の災害等のケースも考慮に入れて作成するべきである。
- ♥ 自主防災会内のリーダー研修や、県から養成を受けて県内各地域の研修をお手伝いしているが、避難場所に派遣される行政の人たちの訓練、特に情報伝達、が必要。

33

現場で感じた具体的課題等

- 危険地域の指定が、実際の危険度の順番になっていないように感じる。
- 危険地域の指定が、同じ町内会の中を分断し、コミュニケーションまで分断してしまう例がある。
- 避難を実施して、何も災害が起こらなかった場合、疲労が倍増する。次回の避難者数が減少してしまう。避難訓練への参加者数にも影響して、減少してしまう。
- 自主避難した場合の行政のサポートが必要。経済的だけでなく、心理的な要素も必要。
- 避難解除のための安全確認作業のため、晴れてかんかん照りでも数時間待たされる。多くの人は勝手に帰宅してしまう。
- 避難勧告に、顔見知りの人に来ないとなかなか避難しようとしにくい。隣町の消防団が手伝いに来て、勝手にわからないため機能しないことがあった。隣接する地域との交流、情報交換が必要だと感じた。
- 砂防堰堤ができたから安心だ。だから避難はしない、というケースがある。砂防堰堤は「時間稼ぎ」にしか過ぎないことを行政は説明しにくいと思う。じゃあ、もっと大きなものを作れ、という住民も間違っていれば、余計に大きなものを作り、安全です、といってしまう行政も間違っている。リスクコミュニケーションについて、真剣に検討していくにはいけない。
- 今年度の避難訓練のテーマは要支援者、要支援施設の避難であった。30人の要支援者を非難させるのは本当に大変で、そのため安全と確認して指定した避難経路を使わず、近道をした例があった。避難訓練でよかったが、対応策を考えなくてはならないと思っている。

34

4. 伴地区自主防災会連合会活動実績

月 日	活 動 内 容	場 所
平成17年		
2月28日	伴地区自主防災会連合会リーダー懇談会	沼田公民館
3月20日	安佐南区防災フェアへの参加	鎌井学区
5月16日	自主防災組織育成講演会での発表(原田会長)	鳥根東大田市
5月18日	防災視察(岩川県道江町より)	沼田公民館
6月7日	平成17年土砂災害防止月間推進市民の集いでの発表(原田会長)	安佐南区民文化センター
6月12日	土砂災害警戒区域水防訓練(大塚上、大塚下自主防災会)	伴地区内
7月16日	広島市西区自主防災連合会 自主防災活動事例講演会	広島市西区役所
8月27～28日	伴地区防災夜間訓練	伴小学校
8月30日	防災視察(鳥根東大田市)	安佐南工場
9月16日	防災視察(海田町)	沼田公民館
9月21日	防災講演会 基調講演(原田会長)	三原市
10月19日	防災組織講演会(原田会長)	西区巴里上公民館
10月23日	防災視察(鳥根東技術士協会)	沼田公民館
10月24日	防災視察(消防庁消防大学校)	安佐南消防署
11月13日	防災講演会での発表(原田会長)	松江市
11月16日	防災視察(大分県日田市自治会連合会)	沼田公民館
11月24日	防災視察(福岡県福岡市博多区自治協連会長遠藤協働会)	沼田公民館
11月25日	防災講演会での発表(原田会長)	広島高等検察庁
平成18年		
1月16日	防災講演会 基調講演(原田会長)	尾道市
2月26日	伴地区自主防災会連合会リーダー懇談会	沼田公民館
3月9日	財団法人土木協会 研修ビデオ用取材	伴地区内
3月26日	防災講演会(原田会長)	東広島市
5月23日	NHK取材	伴地区内
5月26日	テレビ神奈川取材	伴地区内
6月1日	国土交通大臣 土砂災害防止功労者表彰(原田会長)	秋田市
6月6日	平成18年土砂災害防止月間推進市民の集いでの発表(原田会長)	安佐太田市
6月11日	土砂災害警戒区域水防訓練(伴中央、三浦田、大塚上、大塚下、グリーンヒル自主防災会)	伴地区内
6月17日	防災講演会(原田会長)	副都庁会安佐南会館
6月23日	広島テレビ取材	伴地区内
7月11日	防災視察(鳥取県岩美町)	安佐南工場
8月26日	伴地区防災夜間訓練	大塚小学校

35

伴地区自主防災会連合会活動の紹介事例



伴地区ひと・まち
防災フェア

平成11年6月29日
豪雨災害写真展



土砂災害対策検討会（国土交通省 砂防部の検討会）第2回検討会 参考資料9 市町村や地域の防災に関する優良事例

市町村や地域の防災に関する優良事例 参考資料9-12

事例番号	事例名	概要
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12	伴地区自主防災会連合会	...
13
14
15
16
17
18
19
20

12 災害に備えた互助活動の事例

伴地区自主防災会連合会

自主防災会連合会による**防災マップの作成**や**災害危険箇所**の調査、**地区内の災害時要援護者世帯の把握**、**生活避難場所運営マニュアル**に基づく**夜間宿泊訓練**など**地区住民が一体となった独自の防災活動**を展開したり、**防災関係機関とも綿密な連携**をとり、**総合防災訓練**等に積極的に参加するなど**地域と行政が一体となった活動**を行っている事例

自主防災組織教育住民用教本（総務省消防庁消防大学校、平成17年2月）

（30ページ中11、12ページ） <http://www.fdma.go.jp/general/life/kyohon/>



5. 自主防災のポイントと重点項目

ポイント1

行政と地域の信頼関係～それぞれの役割

行政は地域から現実を学ばなくてはならない

地域は行政と情報を共有しなくてはならない

ポイント2

地域を自ら守る**優れた防災リーダーの育成が必須**

ポイント3

危機管理的な心構え

3日間は、誰も助けてくれない(と想定して準備する)

伴地区人口30,000人 vs 安佐南区行政人口 約500人

安佐南区人口220,000人

ポイント4

情報 = 行政は知らせる義務， 地域は知る義務

重点項目1： 災害弱者の把握と支援組織

ひとり・老人世帯及び障害者世帯を、各町内会の自主防災会長が民生委員の協力を得て把握し、安全な避難経路を検証し、防災マップ及び生活避難場所運営マニュアルに反映している。

また、災害による被害を軽減することを目的として、社会福祉施設と近隣自主防災会との災害協力応援協定書を締結し、防災対策を確立している。

- 1 網坂自主防災会・・・太田川学園
- 2 奥畑 " "・・・和楽荘
- 3 広陵 " "・・・友愛園
- 4 下向 " "・・・しんあい
- 5 藤興園 " "・・・どんぐり作業所(予定)

地道で誠実な説得努力あるのみ

平成18年度避難訓練のテーマは

「お年寄り 早めに呼びかけ 一緒に避難」

(平成18年度土砂災害防止推進の集い(全国大会) キャッチフレーズ)

重点項目2： 住民意識の改革と維持

♥「楽しい」防災訓練(リアリティやサプライズが効果的)

一人ひとりの防災行動力の向上

防災意識維持の手がかり、きっかけ

♥アンケートによる意識の把握と訓練などへの反映

あくなき向上心(訓練のやり方も一つの技術)

目
標

1. 災害に対する危機管理意識の高揚
2. 危機管理の実践
3. 災害弱者への配慮
4. 防災行動力の向上

実体験から得た教訓

- ❖ 情報をわかりやすく伝えるために、楽しく参加するために、**漫画などを利用**するのも大切な手段。
- ❖ 避難するときは、**避難生活が、1週間に及ぶ事**を想定して、必要なものを持参するよう、訓練の時から、徹底する。(意識の持ち方一つで、変わる)。
- ❖ けが人役の人が、自分で歩いて救急隊のところに行く、行っても1時間も待たされる、という訓練は、役に立たない。
- ❖ 信念と合理性に基づく説明、説得が組織力を生み、それが地域の防災力の向上につながる

42

漫画を利用した避難訓練情報資料の例



43

6. 住民が行政を動かす時代（行政への要望）

3日間は、誰も助けてくれない

安佐南区人口22万人 vs 安佐南区行政人口 約500人

- 避難場所等に不適當なことがある場合、**行政に伝え、協議**して改善(変更)する.
- **公助(行政)**を**地域(共助, 自助)**がリードし、支えることで地域にとって本当に必要な、役に立つ公助を得られる.
- また、共助は自助なしには実現できない.

44

自助の心がけ

- 自分の住んでいるところを地図で確認
- 周辺の環境を確認
- どんなことが起こりそうか、確認する.
- 過去の災害事例を確認する
- 避難場所の確認、避難経路を確認
- 警報等の情報入手方法、ルートを確認する
- 家族同士の連絡方法を決めておく

45

